

脳神経内科

1. 診療科としての特色

- 内科専門研修終了後、当科で研修を継続することで神経内科専門医として幅広い分野に活躍できる医師になれます。リハビリテーション、血管内治療、神経救急などの分野へ進んだり、脳卒中専門医、認知症専門医、頭痛専門医、てんかん専門医、脳波・筋電図専門医、日本脳神経血管内治療専門医、日本人類遺伝・日本遺伝カウンセリング専門医などのサブスペシャリティーを取得することも可能です。
- 臨床だけでなく研究においても、質、広がりともに世界に通用する充実した教室です。
- 脳血管障害などの一般的な疾患から、神経難病まで幅広い疾患を扱っています。
- 旧国立大学系神経内科学教室の中で、病床数、メンバーともに最大規模です。

2. 研修目標

- 正確な病歴と神経学的所見がとれ、そこから問題点を的確に抽出できる（的確な **problem list** の作成）。このため当然ながら患者、同僚、コメディカルスタッフ等とのコミュニケーションやディスカッションがスムーズにできる。
- 諸検査（特に髄液検査、神経放射線学的検査、神経生理検査、神経病理検査）の意味を理解し、診断に至るために必要な検査計画を自ら立案できる。手技的には最低限腰椎穿刺が1人でできるようになる。筋生検、神経生検も助手として最低1回経験する。
- 研修必須項目である脳血管障害を始めとし、代表的な変性疾患（パーキンソン病など）、免疫性神経疾患（多発性硬化症、重症筋無力症など）、感染症（髄膜炎・脳炎など）に関して、基本的、標準的な診断をつけることができ、治療法を選択できる。